



「学校の新しい生活様式」

首都圏をはじめ、全国各地で新型コロナウイルスの感染が広がってきている状況です。先日県内においても新たな感染者が確認されました。現在学校では、文部科学省から6月に発行された、学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル「学校の新しい生活様式」をガイドラインとして、学校運営を行っております。これは、感染リスクはゼロにすることはできないという事実を前提として、子どもたちの健やかな学びを保障していくために、学校においても「3つの密」を徹底的に避ける「新しい生活様式」を導入し、感染のリスクを可能な限り低減しつつ、教育活動を行うためのものです。

□ 学校における基本的な感染症対策について

1 生徒への指導

- ・生徒が本感染症を正しく理解し、感染のリスクを自ら判断し、これを避ける行動をとるとともに、差別や偏見のない適切な行動をとるように指導する。

2 基本的な感染症対策の3つの取組

(1) 感染源を絶つこと

- ① 発熱等の風邪の症状がある場合等には登校しないことの徹底
※その場合、「校長が出席しなくてもよいと認めた日」として取り扱います。
- ② 登校時の健康状態の把握
- ③ 登校時に発熱等の風邪の症状が見られた場合
→生徒を安全に帰宅させ、症状がなくなるまでは自宅で休養するよう指導する。

(2) 感染経路を絶つこと

- ① 手洗い（流水と石けんで、こまめに、丁寧に（30秒程度）行う。）
- ② 咳エチケット
- ③ 消毒（1日1回以上、手でよく触れる場所や教具を消毒液で清拭）

【各自に必要な持ち物】

清潔なハンカチ・ティッシュ、マスク、マスクを置く際の清潔なビニールや布等

(3) 抵抗力を高めること

免疫力を高めるため、「十分な睡眠」、「適度な運動」及び「バランスの取れた食事」を心がけるよう指導する。

□ その他のポイント

- ・マスクは、生徒及び教職員ともに、常時着用します。
※熱中症の心配がある時や体育の授業等で外す場合もあります。
- ・換気を定期的に行います。（※教室内の温度を適切に管理）
- ・身体的距離（座席配置等）を、可能な限り1～2メートル確保します。

以上のことを実践していくためには、生徒への指導のみならず、朝の検温や共有物品の消毒に加え、給食時間や休み時間、登下校の行動の見守りなど、学校、家庭、地域の協力が必要になりますので、ご協力のほど、どうかよろしくお願いたします。

※上記の内容は、下に示した文部科学省のホームページからご覧いただけます。

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～
https://www.mext.go.jp/content/20200616-mxt_kouhou01-000007426_01.pdf



「おかげさまで」という感謝の気持ち

7月中旬から下旬にかけて、総合的な学習の時間等を使って、全学年で校外での体験的学習が行われました。

1年生は男鹿市での地層観察や村内での調べ学習を、そして2年生は村内で2日間、職場体験学習を行いました。また、3年生は自分の調べ学習のテーマに沿って、秋田市等を中心にフィールドワークを行いました。みなさんが社会に出て、生きていく上での必要な「人や社会とつながる」とこと、自ら考え、行動するという貴重な体験ができ、多くのことを学んでくれたと思います。

みなさんは、今回の体験を通してどんな気づきがありましたか。働いている方々を見て、プロ意識や知恵が隠されていることに気づきましたか。話したり、説明をしているときに、さりげなく、無駄のない動作や心遣いをするのが、職業のプロと呼ばれる人たちに共通することです。

みなさんも、近い将来、社会に出て、働くこととなります。自分を活かし、自分らしく生き、社会に貢献することができれば、本当に幸せなことです。

社会で生きていくためには、まず第一に責任が生じます。人間は誰でも一生懸命に取り組んでいても、様々なミス、失敗をすることがあります。その時に、「〇〇のせいで失敗しました」という言い訳は誰でも簡単にできます。大切なことは、次に同じ失敗をしないためにどんなことを心がけるかや、どんなことをしてその失敗を取り戻すかということです。反対に、うまくいった場合に、自分をほめることは自信にもつながります。しかし、その成功には自分だけの力ではなく、様々な人の支えや協力によってできたことが多いはずで、そのことに気づき、「おかげさまで」という感謝の気持ちをもつことも大切です。

「おかげさまで」という言葉は、みなさんはあまり使うことがないかもしれませんが、他人の親切や助けに対して感謝の気持ちを表しています。「周りの人が支えてくれたおかげで、無事に上手くいきました」という意味になります。もう一つこの言葉には、素直に相手の意見などを受け入れるという謙虚さも含まれています。このような言葉をきちんと使うことは、社会に出てからも必ず必要になります。

他者を大切に思い、素直に感謝の気持ちと謙虚さを伝える言葉は、「ありがとうございます」が一般的だと思いますが、「おかげさまで〇〇することができました」という言葉も徐々に使えるようになっていきましょう。

思いやりや心遣いは目に見えるものではありませんが、相手の立場で考えて、困っていたり、悩んでいた人に対し、必要なときに無意識にそっと手を差し伸べられるような人になってほしいと願っています。

「ちょっといいお話」

職場体験でこども園に行った2年生のRさんは、2歳児の担当をし、ある子どもにとっても懐かれたそうです。その子は、お昼寝後にRさんが帰ったことを知り、悲しくて泣いていたそうです。Rさんは子どもの目線に合わせて話を聞いたり、遊んだりプロ顔負けの対応ができていたと聞きました。

3年生のAさんは、雨の日の登校時に、玄関前の屋根付きの共有スペースの前で、必ず傘の水滴を砂利の所で払ってから入って来ます。タイルが水滴で滑りやすくなることを知っているからこその心遣いなんだろうなど、いつも感心して見えています。

また、先日出席したある村の会議では、中学生の元気な挨拶がとてもよいということを知りました。周りからこのような話を聞いたり、見たりすると本当に嬉しく、大中学生を誇りに思います。

